

「白川」の植調剤・マルチ・枝別摘果による高品質果実安定生産技術

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹研究室

担当者：榊 英雄

研究のねらい

温州ミカン「白川」は、樹勢が強く隔年結果性が強いいため、生産が不安定なうえ高品質果実になり難い。そこで、植物生育調節剤、マルチ、枝別摘果を組み合わせることで、樹勢を安定させ、高品質果実を連年生産できる生産体系を確立する。

研究の成果

1. 「白川」に、表1に示す管理を実施することにより、徒長枝の発生が少なくなり落ち着いた樹相となる。
2. 収量は年次変動が少なくなり、隔年結果性が小さくなる。
3. 果実品質は、糖度が高く、果皮の赤味が強い。また、浮皮も少ない果実が生産できる。
4. 出荷果実は、特選果実の割合が高く、収益の増大が見込まれる。
5. 以上の結果より、実証園での技術を体系的に実施することで、「白川」の高品質果実の安定生産ができる。

普及上の留意点

1. 表1に示す技術は、樹勢や立地条件等に合わせて2～3年は継続して実施する。
2. 植物生育調節剤は、登録されている使用方法に注意して、適期での使用とする。
3. マルチは、8月中旬以降の被覆とするが、園地条件、その年の気象条件によっては、過乾燥になり酸高になる恐れがあるので、かん水施設を完備し過度の水分ストレスがかからないよう十分注意する。

[具体的データ]

表1 「白川」の高品質安定生産のための管理一覧（現地実証園より）

管理内容	目的	実施時期
ハコブトゾール(500倍)散布	新梢伸長抑制	発芽直後(4月上旬)
枝別摘果	次年度の着花確保	7月下旬～8月上旬
イソカゼート(2,000倍、2回)散布	品質向上	7月下旬、8月下旬
マルチ被覆	品質向上	8月下旬～収穫

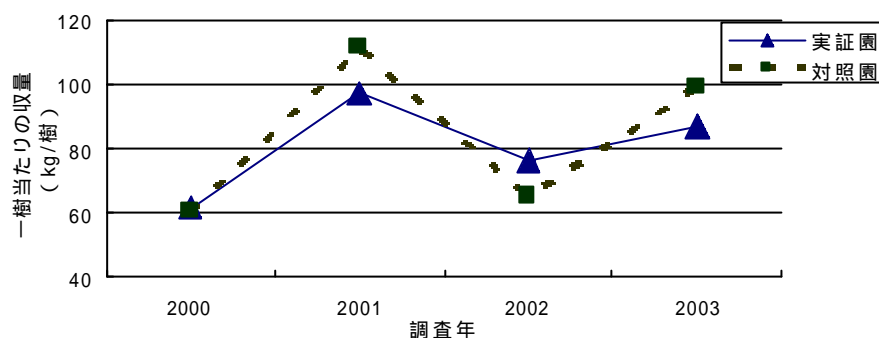


図1 実証園の一樹当たりの収量の推移

表2 実証園の果実品質(2000～2003年)

	糖度(Brix)				クエン酸(%)				果皮色		浮皮度
	2000	2001	2002	2003	2000	2001	2002	2003	a値	a/b値	
実証園	11.8	12.7	13.7	12.8	0.81	0.91	1.31	1.04	22.4	0.341	0.65
対照園	10.4	11.4	13.2	11.7	0.60	0.75	1.14	0.86	19.9	0.299	1.12
有意性		NS	NS				NS	NS		NS	

注) 果皮色・浮皮度は2001年度の調査結果。

表3 実証園のA選果場における評価(2002年度)

	規格	出荷割合 (%)	階級割合(%)				
			S	M	L	2L	3L
実証園	特選	65	3	22	38	34	3
	レギュラー	35	6	24	27	37	6
対照園	特選	41	3	22	32	39	4
	レギュラー	59	4	22	29	39	6

注) 規格は、非破壊選果機の糖度・酸度により区分した

表4 実証園における収益性(2002年度)

	資材費・労働費	粗収益	利潤
金額	- 63,590円	+ 81,376円	17,786円

注1) 資材費は、ハコブトゾール、イソカゼート、マルチ資材費

2) 特選単価200円/kg、レギュラー131円/kgで試算